



ウイアク村「森の家」の夕餉 飯出佐恵 画

MAISIN TAPA CLOTH

The Maisin people live in nine villages along the shores Colling Wood Bay in northeastern Papua New Guinea. Until the early 1960 s, the people made most of their own clothing from the beaten inner barks of several wild and one cultivated tree. Since that time, European cloth has become the common dress, but Maisin women continue to make designed tapa cloth. They wear it along with other traditional in local celebrations. They also give tapa cloth as a form of wealth in ceremonial exchanges and in trade with neighboring people for clay cooking pots and for stringbags.Tapa cloth forms a very important part of Maisin cultural identity. Maisin cloth are recognized as the finest produced in Papua New Guinea. In resent years the sale of Tapa cloth in the tourist market has become an important source of income for people in the villages.

written by Maicad

▲ 2007年6月29日~7月21日 ▲ ソロモン諸島 地震·津波被害 ■ 調査 報告 清水靖子

2007年4月2日(月)、ソロモン諸島ウエスタン州でマグニチュード8.1の地震が朝7時40分頃発生し、高さ数メートルの津波が島々を襲いました。村々の家屋は倒壊または流出し、53人が死亡、被災者は5万人と報道されました。

現地の状況について「森を守る会」にも問い合わせがあり、調査の必要を感じ、清水靖子が調査に出かけました。調査期間6月29日から7月21日まで。

被災された方々が地震・津波の前にどのような暮らしをしていたのか、原生林を守っていた地域と破壊された 地域では被災状況や復興の可能性に違いが出てくるのか。伐採と津波の関係などに焦点をあてて調査しました。

はじめに 津波被害の中心となったウエスタン 州の島々は貴重な熱帯雨林の伐採の激しいところで、 1966年以降、日本も関係のあった外国企業による伐採 がつづいてきました。そして日本はその大半を30年間 輸入してきました。またかつては日本軍が侵略し、住 民に多大な被害をもたらした地域でもあります。その 意味でも私たちの責任を見過ごすことができません。

現地に行ってみると、やはり熱帯雨林を失った村々 での地震・津波からの再建の困難さは明瞭でした。食 料・水・家屋再建の木材の不足をどこも訴えていまし た。避難先のキャンプへの緊急援助の第一期は終わ り、長期的な復興への支援という二期が開始されたと ころでした。

3週間のうち、首都のホニアラでは救援関係者と熱帯 雨林調査の関係者にインタビュー。被災地のウエスタ ン州では、ニュージョージア島のムンダ、ギゾー島各地、 ヴェラ・ラベラ島各地を訪れました。

今回の被災時刻は朝食後の活動開始時に起こったこ ともあり、さらにはアジアでの津波被害の情報を熟知 していた結果、島民たちは声をかけあって高台に逃げ ることを優先しました。しかし津波の到来は早く、逃 げ遅れた人々、幼児、高台まで遠い地域などに犠牲者 が多々でたことは悲惨でした。

7/1~3 ニュージョージア島の中心地ムンダの ロッジに宿泊して調査。嵐と雷と雨。

最後の一日がときどき晴れ。ムンダはウエスタン州 の飛行便や船便の中継地・情報の交差地である。

レンネル·マム(Renel Mamu)さん(69歳)との再会とイ ンタビュー。現在ムンダのドゥンデ村での長老会議の 長。彼はかつて、ソロモン・タイヨウ(日本の大洋漁 業の子会社)によるカツオー本釣りのための撒き餌 (キビナゴ類)の大量漁獲に抵抗し、『森と魚と激戦 地』(北斗出版/清水靖子著)に登場した人である。

「津波はムンダを取り囲む環礁群にぶつかって弱 まってからムンダに入った。高さは1メートルほどでし た。皆で声をかけあって高台に逃げた。私の家は伝統 的な高床式でしっかりしていたので壊されなかった が、浸水・倒壊の被害にあった家も多々ある。」 「津波直後はギゾー島からの津波の負傷者が運びこ まれてきて一時は大混乱だった。重病人は首都のホニ アラに送った。」「津波の1週間後には支援の物資が 中継基地としてのムンダに到着。ついでギゾー島など に運ばれて行った。」

「魚について。日本のタイヨウ漁業による時代は環 礁の魚が減ってしまった。今は州政府の元でのソロモ ン・タイヨウなので、漁獲量は激減している。そのお かげでムンダの魚も豊かにある。私たちはローカル マーケットで魚を売っていい収入を得ている。」

「津波後、魚は一時的に減った。ギゾー島などで環 礁が破壊されているところから、ムンダに魚が逃げて きたのか、その後ムンダに集まってきている。津波以 後の大きな変化としてムンダの潮位があがってい る。」と強調した。

「私たちの部族はムンダでの唯一の深い森を持って いる。伐採企業に手渡さないように、長老たちの会議 があるたびに確認しあっている。うっかりすると政治 家のコネで、若者たちが伐採会社に売りかねないから だ。先祖代々私たちは森とマングローブ林を大切にす るように。そうすれば暮らしも海も豊かになると伝え てきた。」

「ソロモン・タイヨウについて。ソロモン諸島政府 は日本の企業に再びもどってきてほしいと交渉中だ が、ウエスタン州の政府は反対している。」

最後に彼は言った。「これから私は自分の人生の歴 史を書いてみたい。書いたらあなたに送りますよ。見 てください」

指導力を発揮しつつ、いい人生を送ってきた人の豊かな表情がそこにあった。

ヴァインガ・ティオンさん (Vainga Tion)。

ロッジの舟の手配の支配人。

「地震以前の昨年に、海に茶色の軽石のようなもの が海に浮かんでリーフに押し寄せていた。」(地震の 直接の原因はプレートの変動にあったが、ムンダ沖か ら北西方向にかけて海底火山が点在する。)「森の伐 採はウエスタン州各地で行われてきたので、川から海 に流れ出て、海に黄色い帯をつくり土砂を送ってい る。伐採による土砂は一般には茶色だが、粘土質から

以下の図の出典「「ソロモン諸島地震津波に関する緊急現地調査報告 (独立行政法人港湾空港技術研究所津波防災研究センター)」



図-1 ソロモン諸島の位置

のものはオレンジ色っぽい。畑(ガーデン)からの土 は濃い茶色なので区別できる。川と海にいつも大量に 流れ出ているのは伐採による土だ。」

「私は伐採に大反対。環境破壊の最たるものだ。何 百年もの樹が一瞬のうちに切られてしまう。腐敗した 政治家と伐採会社がつるんでソロモン諸島の森を壊し ている。」「原生林を守るために、今二箇所の地主た ちが裁判で戦っている。ひとつはニュージョージア島 のビルハーバーの東沖の島。もうひとつヴェラ・ラベ ラ島の地主で、6月はじめにソロモン・スターの一ペー ジに反対する抗議行動の写真記事が出た。(後述す るレオナ村のこと)」

7/3 ~ ギゾー島へ。嵐がつづく。 ギゾー島の人 口は9000人。被災者は3000人。900軒の家が崩 壊または流出した。死者は33人。同島のギゾー市はウ エスタン州の州都である。

ギゾー島の伐採は独立以前の1970年代にニュージー ランド系のAllardyce社が、貴重な樹種を中心に大規模 な伐採を数年間行った。ほとんどの大きな木はなく なった。

ギゾー島は津波以前も森が少ないので水源も不足していた。そのため津波波被災後のキャンプ地での水不 足と、家の再建のための木材不足が顕著だった。

津波被災者たちの支援に草の根で活躍している ドミニコ会の修道女たちの話。



ギゾー島ティティアナ地区 見渡す限りの 廃墟の中に教会の骨組みだけが残っていた。



ギゾー島の丘の上のキャンプ地を巡回するドミニコ会のシスター

「自分たちの家も津波でやられた。津波が押し寄せ てくるとき、ポリスたちが人々に急いで高台に逃げる ように言ってまわっていた。それで皆丘の上に逃げ た。人々は今も被災キャンプ地にいる。テントは配ら れたが、ワントク・システム(一族郎党身内間の親密 な相互支援関係)で、関係者経由ワントクに行き、平 等ではなかった。」

「私たちは巡回してトラウマ状態の人々のカウンセ リングをしている。また聞き取りをしながら、必要性 に応じて支援物資を配っている。家の再建に必要な ブッシュ・ナイフ(木を切ったり、草刈や調理まで、 万能の働きをする)は必需品でこれも配った。」「津 波の後、ギゾー島の魚は不味くて当分食べられなかっ た。蜜蜂は花不足で蜜蜂自身の集めた蜜を食べて生き ているので、今蜂蜜が取れる状態ではない。」

7/8)ギゾー島 マラケ·ラヴァ Malake Rava 地区に 行く。

(案内人はドミニコ会修道院のマリー・トムさん) 南東突端にあるこの地区は政府の病院、看護人たちの施設、政府役人官舎が立ち並んでいたところであるが、津波をまともに受けて見渡す限りの廃墟と化した。移住先は丘の上で現在もテント暮らしである。海岸に3箇所ほど水道が残っていた。女たちは丘を下りて、その水道で洗濯をし、水汲みをしていた。

手伝っていた子供たちにインタビューすると、「朝 ビスケットを買いにお店にいったところで地震があっ た。女の人が丘に逃げるように叫んでいたので、急い で丘に逃げた。」と語る。

政府関係者であるため収入はあり、宿舎の再建は政 府次第という状況にあった。



ギゾー島ヌサ・バルカ地区 津波の直撃で廃墟になった家

7/9

「 ギゾー島 ヌサ·バルカ(Nusa Baruka)地 域へ行く。(案内人は同上)

高台から遠いため死者がもっとも多かった集落であ る。キリバスからの移住者たちが漁業に従事し、近く の魚マーケットで地の利を得て暮らしていた。

地震の直後の強烈な津波が1.5メートルの高さで集 落を襲い、家・舟・エンジン・漁具、暮らしのすべて を失った。80軒が倒壊。700人が被災。9人が死亡し た。

ジョサイア(Yosaia)さん(49才)

「私は家の外にいた。津波は強くて巨大だった。私 自身生命が助からないと思ったほどだった。目の見え ない19才の息子のことが気になったが、津波の中でど うすることもできなかった。彼は壊れた家の下で三日 後に遺体となって発見された。他の家族員は無事だっ た。家も漁具もすべて失った。今2つのテントの中で 家族11人が暮らしている。漁に出ることも、売ること も、家を建てることもできない。政府の<u>災害救援協議</u> <u>会(NDC)</u>が家を建ててくれると言っているがいつのこ とやらわからない。」

ロース(Rose)さん(60才)

壊れずに残った唯一の海辺の家。太いクイラの木の 柱の二階建て。柱の傷から津波の高さは1.5メートル とわかる。

「生後二ヶ月の双子の赤ん坊(孫)を、一人は私 が、一人はその母が連れて家の外に出た。3分後ぐら いに津波が来た。泳いで逃げたが津波の強さで赤ん坊 はそれぞれの腕からはずれてしまった。翌日赤ん坊の 一人の遺体がマングローブ林で、二日後にもう一人が 海に浮かんでいるのを発見した。皆嘆き悲しんだ。」

訪問したときも、家族と親族が集まって、最愛の者 を失った悲しみに沈んでいた。

ポール・テムウエル (Paul Temwel) さん (51オ)

同地域の指導者。「津波で妻と孫を失った。二人の 遺体は3日後に崩壊した家の下で発見された。妻の長 い髪が木にひっかかっていた。妻はとても気のつく人 で、地震と同時に皆を家の窓から外に出して逃げさせ た。すぐに津波が来て、家族は妻を見失った。私はた またまマングローブの林にいて家族と離れていた。風 も波もものすごく強くて私自身も死ぬかと思った。」

彼は政府から借り受けていた丘の土地を、避難民たちのテントや掘っ立て小屋づくりに提供していた。彼の家族も、元の鶏小屋に住んでいて超満員。水はごくわずかの量の泉が中腹にあるだけで暮らしをまかなえるものではなかった。

ー個の水タンクが支給されてきたが、雨水を集める 屋根がないので、放置されていた。これは被災地で良 く見られる風景である。タンクの必要な場所には、ト タン屋根がないと雨水補給にならない。 7/10 ヴェラ・ラベラ島の原生林のレオナ(Leona)村へ 晴れのち、雨嵐、のち晴れ。

同島では北西海岸部での被害が最大だった。そのひ とつのレオナ村に小舟で4時間かけて行く。嵐の海の 航海でずぶ濡れになった。

案内人は村の指導者たちと、ウルコ·ボスマ(Wilko Bosma)さん(Natural Resources Development Fund) さん。共にレオナ村背後の2500ヘクタールの原生林を 守ってきた。

村の浜辺に着くと、子どもたちはハンモックに揺 れ、女たちは樹の下の休み場所で憩っていた。

「津波は3メートルの高さで、あのココナツの木の枝 が印よ。」「津波はものすごいのがまず北西から、つ いで南東から来た」と口々に言う。85軒の海辺の家 (同じ部族の隣村とあわせて)が崩壊した。自分たち で建てた伝統的な家屋だった。津波後は崖の途中の狭 い場所に、身を寄せ合うように掘っ立て小屋暮らしを している。

人々の顔は明るい。背後の森からの木は再建のため に豊富にある。小さいせせらぎではあるが、身体を 洗ったり、飲み水や洗濯をする流れもある。ここでは 男たちも崖上に水を運びあげていた。他地域では水汲 みは女性が担っていたのだが、ここでは皆の協働がう かがえた。

20年来、森を守る活動の中心にいるのが指導者のマー ロン・クヴェ(Marlon Kuve)さん(51才)。彼を中心に村 が結束しているのがわかる。それぞれの部門で知恵と 実力をもった逞しい指導者が育っている。

<u>7/11</u> 大河オウラ (Oula) に行った。

河口を少し遡るとアラン·ソーレ(Allan Sore) さん (56才)が一人で住んでいた。

上流からの二つの川が合流してくる一角にある。肥沃 な大地だったのだろう。「以前は深くて清らかな美し い川と静かな森だった。今は上流からの大規模伐採に よる土砂の流出で、二つの川とも、濃い黄茶色に染 まっている。」と語る。河は土砂を河口に運び、さら に海を茶色に汚染しながら、海底に土砂を堆積させて いる。ことに本流は、いっそう濃い茶色になっている 今回の津波は、こうして海に堆積した陸からの土砂 を、再度河に押し戻し、河をいっそう茶色にしてし まった。河の底も浅くなってしまったという。両岸は 津波でえぐられ、両岸の木も被害を受けていた。ここ は伐採と津波と土砂の複合被害のような状況を呈して いた。彼の家はなぎ倒されていた。

7/12)レオナ村の川

レオナ村の人々もさすがに嘆くのが川への 被害だ。

「私たちは原生林を守っているけれど、周辺の村の 川では伐採の泥が海に入り、私たちの海にも土砂がた まってしまっているのがわかる。津波はその海からの 泥を、今度は私たちの川に運んできたのだ。 ぜひ見てほしい」とその川に連れて行ってくれた。河 口から遡上できないほど泥が積もり、小舟のエンジン を止めても櫂も漕げない。舟からの長い棒を突き刺し ながら、遡上する以外にない。倒木が川に横たわって いる。その遠くの山並みに原生林が見える。

「あの原生林を守るためにみんなが戦っている。」 と皆が誇らしげに言う。

「津波以前はどんなに清らかで深い川で私たちの憩 いだったか。でも今はこの川では泳げない。入り込ん だ泥の中に沢山のワニも生息している。ほら、これが 糞よ。」と言う。

次に隣村ヴァトロ村にも行く。二度目の伐採企業が操 業中だった。「津波からの復興のための森の樹もな い。食料もお金もない」と暗い顔で語る。伐採と津波 のダブルパンチの窮地に陥っていて、インタビューす るのがつらい。

帰ってくると赤十字のボートが到着して、家の再建 のための大工道具類を配布していた。のこぎり、ハン マー、持ち運べる小さな製材機、シャベル、くい打ち 器具などなど。レオナ村では森があるから、こうした 援助が生きる!

最後の夕方は、斜面のせせらぎで、イモを洗うよう な混雑の中、私も身体を洗った。人が縦に一人ずつし か並べないような狭いせせらぎだ。待っている人々も 楽しそうにわいわい言っている。「イモ洗いのせせら ぎ」と私は名づけた。わずかな水でも、わけあって暮 らしている人々の明るさがある。森からの流れはやっ ぱり気持ちがいい。

最後の夜、崖の中腹の小屋から星空をあおぐ。満天 に大きな粒の星が散らばっている。東京にないものが ここにある。不思議な気がした。津波で多くを失った 村の、それでも幸せな暮らしが身にしみた。



ギゾー島ヌサ・バルカ地区ポール・テムウエルさん 妻と孫を津波で失った。



ヴェラ・ラベラ島のレオナ村の若者たち 森を守る気迫に満ちている

~調査のまとめ~

3週間にわたって被災地を回った。被災地では復興 に向けて明暗をわけていた。

緊急支援による食料などの支援段階は終わり、被災 者たちは今後自力で食料と飲料水と家の再建をする以 外にない。政府も大援助団体もそうした支援する意図 はない。

ところがギゾー島の被災地では、津波以前の暮らし において、背後の森からの木材も、水資源も、畑の食 料も少ない。水は雨水タンクに頼っている部分が大き かった。復興の道筋は厳しい。雨水タンクに頼る暮ら しに慣れてしまっている。こうした暮らしのありかた そのものを問い直す必要も一方ではあると思う。

本来の熱帯雨林があれば、水資源も豊富にあるという暮らしの重要さを、それぞれの島々で再認識する重要な機会となった。一方、「援助」によって、住民が トタン屋根の家と雨水タンクに依存し、本来の暮らし を見失う危険性があるのではないかとも思った。

ヴェラ・ラベラ島では、熱帯雨林の伐採が入ったとこ ろは、再建の木材の不足、食料と飲料水の不足に加 え、復興のための金銭不足が問題となっており、村人 に意欲がない。

一方森を守ってきたレオナ村のようなところは、再 建のための衣食住の糧がそろっている。たしかに伐採 企業の侵入を食い止めることは大変なことだが、伝統 の暮らしを土台にしながら、オルタナティブな収入を 増やす取り組みに希望がある。

インタビューによると、公的基盤の整備(埠頭・病 院・政府施設の再建など)に、今後外国大援助団体が 力を入れることになる。政府の災害支援協議会の方 は、ソロモン諸島での緊急通報システムや、コムニ ケーションの拠点づくりに力を入れると言う。

では「森を守る会」のような小さな団体にできる支援は 何であろうか。最後にNew Zealand Aidのマネー ジャーが示唆したことが心に残っている。

「どこか小さな村なりに焦点をあてて、そこを支援 するとか、援助からもれがちな小さな人々に支援する 現地のNGOの取りくみと連携していくのがいい」。

今回の調査は、多くの団体や個人と出会って、ソロ モン諸島の状況をより詳細に調査する機会ともなっ た。深い感謝の念を表明したい。また今後の調査の課 題として、熱帯雨林伐採による土砂の流出、浅海底か ら深海底への土砂の崩壊と津波との関係、津波による それらの土砂の川へのゆり戻しなどの問題に、も注目 しつつ、専門家の意見を聞いていきたい。

最後にこの調査を機会に出会った地域へ、今後「森 を守る会」のメンバーとともに、調査旅行に出かける こともできたらと希望している。

ニューズレターでは概要をお伝えしましたが、「ソロモン諸島地震・津波調査報告書」(30頁)も作成しました。 報告書希望者は「森を守る会」下記までご一報ください。 送料込み500円(後日郵便振込)で頒布いたします。 png@ps.ksky.ne.jp Fax0493-24-8559

〒355-0016 埼玉県東松山市材木町16-24(松本)

2007 ウイアク村 エコツアー 報告 松本 浩一

今回のツァー参加者の清水靖子さん、米森文嗣さん(札幌)、飯出佐恵さん朋子さん親子、松本 浩一さん類志さん親子に、ポートモレスビーで合流したリチャード・ブラントンさんを加えた7 名は、ウイアク村に滞在して、タパを作ったり、森の家へ一泊したり、有意義な日々過ごししま した。以下は、当会の松本浩一さんによる報告です。

8月25日(土)

乾季であるが海は荒れている。

ニューギニア航空の直行便は、ほぼ定刻通り午後9 時過ぎに成田空港を離陸、首都ポートモレスビーには 翌朝午前5時(日本時間午前4時)到着。乗客の9割 がオーストラリアへの乗り継ぎ客であり、パプア ニューギニアに入国するのはいつものとおり20~30 名。私たちは入国ビザの100k(約4300円)を支払い、 荷物を持って税関を抜け、ホテルへ向かう。今年度、 ウイアクへ行くための国内便は日曜午前中の便が月曜 早朝に変更されており、丸一日、ポートモレスビー滞 在を余儀なくされる。

午前11時、法律家ブライアン・ブラントン(以下敬称略)の長男、リチャード・ブラントンがホテルを訪れ、現地での活動内容の打ち合わせを行う。リチャードは、1996年、ウイアク村の電話設置に携わった技術者でもあり、今回は電話とソーラーシステムのメンテナンスのため、私たちとウイアクに同行することになった。折しも、ポートモレスビーで環境保護団体の主力メンバーが政府のすすめる温暖化防止のための排出権取引(多くは、原生林破壊とプランテーション開発)反対の記者発表をするため集結していて、夕刻、リチャードとともに清水、松本は彼らを訪問し、情報交換を行った。

27日(月)、国内便は定刻を1時間遅れ、午前7時 に離陸。いつもはワニゲラ空港を使ってウイアクへ行 くのだが、今年はワニゲラ空港の利用者が減り、草刈 りもしていないため空港が使えないということでダイ ビングで有名なトゥフィへ向かう。朝日に輝く熱帯雨 林に魅了されながら1時間のフライトでトゥフィ空港に到 着。ウイアクの人々は、あらかじめワニゲラ空港が使 えないことを知っていたのでトゥフィまで迎えに来て いるはずだったが、誰もいない。トゥフィのヘルスセ ンター(診療所)へ行き、リチャードの知り合いの職 員、ベヴァン・ヤガを通じて短波無線でウイアクへ私 たちの到着を連絡してもらう。いつものことだが、隔 絶されたウイアク村へのコミュニケーションは苦労す る。トゥフィとウイアクはヘルスセンターの短波無線 を通じてコミュニケーションがとれることを今回初め て知った。ウイアクからの迎えが来るまで、トゥフィ の港でシュノーケリングを楽しむ。

午後12時半頃、スピードボート(ディンギー)でウ イアク村からの迎えが到着。帰りのガソリンを購入し て午後1時50分、トゥフィを出発。ガソリンの値段が1 リットル=270円なのに驚く。ニューギニア本島北岸は オペレータのアイシックの巧みな操縦で2時間の航 海ののち、ウイアクへ到着。波をかぶって皆、ずぶ濡 れ、荒波でたたきつけられたため、お尻も痛い。ウイ アク到着後、ウイアクなど9つの村々をたばねる共同 体マイカッド(MAICAD ~ Maisin Integrated and conservation Development)の代表たちと遅めの昼食を とる。マイカッドの代表はジェイフェット・テリナ、 副代表ウインター・カンドロ、事務局長ベンジャミ ン・イフォキ、会計ネヴィル・カニア、ベンジャミン 以外、選挙で就任したばかりの新メンバーだった。

長らく代表を務めたシルベスタ・モイが2005年4月 に死去した後、いろいろ混乱があったようだ。ウイア ク村といっても、東からガンジーガ、バイオバ、マウ メ、ヤマケロの4つの集落がある。それ以外、ウ ヴェ、ユアユ、マルア、シナパ、アイララの5つの 村々が海岸線にそって点在し、同じマイシン語を話す 共同体とはいえまとめるのは大変だ。マイカッドの中 心はウイアクだが、新体制はジェイフェットがヤマケ ロ、ウインターがシナパ、ベンジャミンがバイオバ、 ネヴィルがガンジーガと地域ごとに配置されていた。

28日(火)

清水と松本は午前中からマイカッドメンバーと今後 の協力関係についてさっそく会合をもつ。会合は午前 中3時間にも及び、マイカッドの現状報告、日本側の 提案するエコツーリズムの説明などを踏まえて、電話 に代わる短波無線設置、タパ購入・販売など話題は多 岐にわたった。

裁判闘争を通じて商業伐採を拒否し、原生林を守り 続けるウイアク村だが、近隣には、アグロフォレストリー という、耳障りは良いが実態は熱帯雨林を皆伐しオイ ルパームプランテーションを作る計画が忍び寄ってい る。また、原生林の奥地では、銅やニッケルなど鉱山 開発の試掘の動きもあり、ワニゲラ周辺では製紙原料 になるアカシアの植林も始まっている。

いずれも原生林を破壊し、外国企業(および政府関 係者)を潤すだけの開発行為だ。マイカッドは団結し てこうした開発を拒絶し、自らの持続的な発展のあり 方を模索している。

一方、私たちのエコツーリズムは、訪問した旅行者 がウイアク周辺でしか得られない貴重な体験(自然・ 文化)を行い、その対価を必要な現金収入としてもら うとともに、訪問時に購入するタパを日本で販売し代 価をマイカッド支援基金として活用してもらうことを 骨子としている。日本側のエコツアーも彼らにとって 踊りやタパなど、文化の継承にとって大切な機会だと いうことがわかり、一安心した。マイカッドの新メン バーも「森を守る会」のエコツーリズムの考え方を理 解し今後も継続的に実施することが確認された。

ウイアク村の電話の状況については、電話会社への 滞納額が7000キナ(約30万円)あり、回線が使えない 状況となっていた。裁判闘争の際には、第三者に傍受 されることのない電話は必要不可欠なものだったが、 やはり村人にとって適切に管理維持することは難しい ようだ。ランニングコストを考えても、電話を継続的 に使い続けることは難しいと村人も判断したようで、 リチャードの提案する短波無線を導入する方向で合意 が得られた。リチャードが設置したソーラーシステム はメンテナンスの結果、完璧に電源として使え、短波 無線を始めるには無線機器とアンテナがあればよいと いうことがわかった。ライセンスには年間200~400 k かかるが、すでにリチャードから指導を受けた技術者 が育ち始めていてライセンス取得も問題がなさそう だ。無線機器とアンテナについては、日本側で調達す る方向で取り組むこととなった。

午前中の会合を踏まえて、午後はコミュニティの代 表者たちも交えて合意事項の確認作業が行われた。手 間はかかるが民主的なやり方だ。近隣の村々の代表も 集まり、マイカッドの説明を受けて村の自立と発展に ついて長老たちが真剣に討議している。周囲には若者 や女性たちも集まって耳を傾けている。マイカッドは 原生林保護や医療福祉、文化保護等のための5カ年計 画を策定し、金銭的なトラブルを避けるため、ファイ ナンシャル・マネジメント・ポリシーもつくることに なった。

清水、松本以外のツアー参加者はタパづくりの見学や 体験などを行い、村の生活を楽しんだようだ。夜、日 本から持っていったプロジェクタを使い、1996年電話 開通の際に録画した村人のビデオ上映会を開催した。

29日(水)、

飯出さん親子、米森さん、息子の4人は村人のガイド で原生林の中を歩き山奥のガーデン(畑)にある「森の 家」まで行く。米森さんは日帰りとなったが、他3名は 野営する。

清水、松本は午前中、タパの木が植わっている近く の畑に行き、タパの「植林」を行う。樹皮布の製造のた めには、村人もタパの木を植林している。根から生え た若木を掘り起こし移植すると、2年ほどで樹皮布が できる太さになるという。今後、タパの植林もエコツ アーのメニューに組み込むことができそうだ。

午後はリチャードとともに、新築されつつあるテレ フォンハウスのなかでソーラーシステムのメンテナン ス作業や使われていなかったCB無線(近距離)の設 置を行った。 ウイアクには、英国国教会の牧師が管理する短波無線 とヘルスセンターに設置された短波無線があるが、使 用目的が限定されているため、マイカッドが日常的に 使うことはできない。エコツアーのみならず、点在す る自分たちの村々間の村落共同体すべての発展を事業 として推進するマイカッドにとって、電話に代わる通 信手段は不可欠だ。教会とヘルスセンターで無線のや りとりを聞いていたが、ランニングコストがかからず データ通信も可能な短波無線が通信手段として最適で あることがわかった。日本のNGO、ソーラーネットから 託された30wの手作りソーラーパネル(シブヤ大学の メンバーが製作)をマイカッドに提供し、CB無線の バッテリの充電とテレフォンハウスの照明用に設置し た。

30日(木)、

清水・松本は、朝から学校を訪れ、7年生・6年 生・5年生の3クラスで授業を行った。学校に来てい る子どもたちは、知的興味も高く、勉強することが本 当に楽しい様子。授業料が払えないため学校に通えな い子どもも多く、野菜をもってきて授業料代わりにし てもらっている子どももいる。学校では、英語や数 学、社会の他、環境や文化についても学習しているよ うで、身につける知識がすぐに生きるための力に役 立っているようだった。

午後1時過ぎ、森から3名がガイドとともに村へ 戻った。野生生物に詳しいハンソンの名ガイドもあ り、とても充実した体験となったようだ。

午後2時からタパを購入する機会が設けられた。現 在、タパの売買は各家単位で自由に行われている。大 きなタパよりも、帽子やマット、バッグなど小さな加 工品がよく売れるようで、それは学費などを支える貴 重な収入源となっている。

私たちは、2005年同様、50枚のタパを購入したいと 希望を伝えたところ、マイカッドは各村ごとに枚数の 配分を決め、村の規模に応じて均等に対価が配分され るよう工夫していた。エコツアーで村に貧富の差が拡 大することは私たちの最大の懸念になっているので、 こうした配慮は大切なことだ。年配の方やミシンが借 りられない家にとってはタパの加工は難しいようなの で、私たちは現地でも売れそうな加工品ではなく、彼 らの支援を考え無加工のタパを求めた。

今回は合計47枚を570キナで購入することができた。 この購入価格は、現在のマーケットプライスよりもか なり安い水準であるが、タパの日本での売り上げがマイ カッドの支援基金となることを理解して村人は協力して くれた。

2005年の購入したタパの売り上げは約12万円であ り、マイカッド支援基金として積み立ててある。今回 購入したタパも村人の意向と善意に報いるため、しっ かり販売していかなければならない。 夕方、ウイアク最後の晩となるため、フェアウェ ル・パーティーが開かれた。狩りでしとめた野ブタの 丸焼き、シーズンのため美味しいマグロ、濃厚な味わ いのマッシュルームなど、いつものタロイモやサツマ イモ料理に加えて豪華な晩餐となった。朋子さんが日 本から持ってきたカンカラ三線で何曲か披露。沖縄の 音楽が不思議と似合ったウイアク最後の晩となった。

31日(金)朝、

ホストファミリーと別れを惜しみ、スピードボート でトゥフィへ戻る。海は穏やかだったが、ガソリンが 足りずひやひやしたが、何とか2時間でたどり着い た。途中、リチャードはCB無線がどこまで届くか実 験していた。ウイアクから最も遠く東にあるウヴェに も電波が十分届くことが分かった。今回設定したCB 無線を3台使えば、マイカッドの村々相互のコミュニ ケーションはスムーズにとれそうだ。今回のツアーで は、リチャードのお陰でいろいろな懸案事項が解決し た。リチャードには「森を守る会」と協力関係を継続 してもらえるよう「支部」としての仕事を依頼し、快く 応じてもらえた。

夕刻まで、トゥフィの空港ちかくで飛行機を待つ。 予定とおり迎えの飛行機が来て、ポートモレスビーに は7時過ぎに到着した。 さいごに 今回のウイアク村エコツアーは、マイ カッド新体制直後ではあったが、趣旨がよく理解され 有意義なものとなった。ニューブリテン島各地に比べ て最もツアーで行きやすい場所、ウイアクでも、コ ミュニケーションや空港からの移動など、数々の困難 がある。エコツアーというにはあまりに小規模であ り、採算に合う商業ベースのものではないが、原生林 を守り続ける村人と交流し、彼らから学び、彼らを支 援する意味では「森を守る会」にとっても重要な事 となっている。来年度に向けて、短波無線局を開局 し、現地との安定的なコミュニケーションを確保し、 エコツアーをより充実させていきたいと思う。ウイア クでの小さな取り組みが今後、各地とのエコツーリズム を通じた原生林保護活動に発展することを期待したい。



牧師の短波無線をチェックする清水さんとリチャード



ソーラーネットから寄贈されたパネルを設置



ガーデンでタパの木を植林する



「森の家」からの原生林ウォーキング



ウイアク村の学校で授業を行う



4泊5日、エコツアーのお別れ



村人が持ち寄ったタパを購入する様子

ウイアク村 エコツアー 参加者の声

ツアーに参加して 松本 類志

パプアニューギニアという国は私にとって父の影響 か良く耳にする名前であったし、大学で林学を勉強 し、熱帯雨林について興味を抱いている私にとっては 訪れてみたい国のひとつであった。去年の同じ時期に も父から誘いがあり行く機会には恵まれていたのだ が、去年はなぜかパスし、今回大学3年生にして初め て、そのパプアという地を訪れる運びとなった。

ウイアク村に着いた一日目はほんとに右も左もわか らず、それまでの移動に時間もかかったため、かなり めまぐるしく過ぎて行った印象である。村の夜は早 く、そして朝も早い。日本の私の生活とはまったく正 反対の、太陽と共に活動する規則正しい生活のリズム が、この日から本格的にスタートした。

二日目は旅行ツアー風に言うなら終日フリータイム であった。その分、この日は私なりに村の色々なこと を吸収するのに適した日となった。午前中は彼らの文 化のひとつであるタパ作りを見学した。当然ながらす べて手作業であるので、その人の技術や心がストレー トに作品に表れる。子供たちは年配の女性たちがタパ を作るさまを、ずっと見て育っていくのだ。昼食後 は、ホームステイ先の自分と年が同じくらいの青年 が、ビーチの散歩に付き合ってくれた。小さな子供た ちも、私が集落を移動するたびにちょこちょこ付いて くるので、このときも同じ感じで何人か同行してくれ た。テレビなどで、このような国を訪れた人たちが感 想としてよく、"子供の目が輝いていた"と言うのを 耳にするが、それはまさしく本当のことであった。異 国の地からやってきたもの珍しさが手伝っていたのか もしれないが、子供たちは声をかけなくてもすぐ寄っ⁽ てきては笑顔をみせてくれた。

このことは、この旅の中で私の中にとても大きな印 象として残っていることのひとつでもある。ホスト ファミリーの子供たちは私がちょっと挨拶するだけで パァっと笑顔になるし、集落の子供たちはたとえ言語 が通じなくても、目で彼らの言いたいことや感じてい ることがわかるような気さえした。私はサッカーが好 きなので、夕方になると彼らのサッカーの輪の中にい れてもらったりしていたのだが、みんなひとつひとつ のプレーに笑顔で反応してくれた。

二日目には、もうひとつ是非書いておきたい出来事 があった。夕暮れ時に、サンデースクールの歌の練習 があるらしく、子供たちが集落の広場で輪を作って 歌っていたので、その輪の後ろから彼らの歌を鑑賞し た。その歌は、内容こそ言葉が違うのでわからないも のの、本当に感動的であった。自然に感謝して、また 自分も自然の一部であることを知っている。おだやか な時の流れの中で聞く彼らの美しい歌声は、涙が出て きそうなくらいに私の心に響いた。それは、今まで聞 いたどんな歌よりも素晴らしいものだったと思う。彼 らは確かに、電気や水道やパソコンや車といった、私 たちがよく"現代文明の豊かさ"と謳うものは、もっ ていないかも知れないが、その心はとても豊かで

あり、あたたかであるのだ。この夕食後のひと時は、 私のそれまでの価値観を大きく変えるものであった。 三日目と四日目は、森の中にいよいよ入り、彼らの "ガーデン"を見せてもらった。伝統的焼畑農法に、 初めて直に触れる瞬間となった。今までは知識として 伝統的焼畑農法が、自然と共生可能な農法であること は知っていたが、見て、話を聞けば、なるほど、確か にしっかりと計画されたサイクルを持っていて、森の 状態をしっかりと見極めてから、森の木々たちと相談 してから、農業を行っているのだ。土地をしっかりと 休ませ、植生が回復するのを待っている。こうなる と、ウイアク村の人たちが耕作する土地は相当な広範 囲にわたり、また綿密にマーキングされた地図などを 持っているのかと思うが、まったくそうでないから不 思議だ。彼らは、私たちには到底想像できない"なに か"を持っているのであろう。しかしこれもまた、先 代から長く続く彼らの農業への知恵がなければ成せな い技なのである。

このように、ウイアクの人たちはまさしく、「森の 民」であった。伝統的な生活を永く続けてきた彼らだ が、今は様々な問題を抱えているようである。それ は、内部発生的なものもあるかもしれないし、外から 願わずして持ち込まれたものもあるであろう。しか し、自立した生活、すなわち自治をしっかりと維持し ていくことが最も重要であろう。私たちは、そのサ ポートをしていく必要があるし、またそのような問題 が世界中で起きている現実も、広く認識していく必要 があるだろう。今回の旅は、そのようなことを自分の 目で見て、気づくよいきっかけともなった。あの子供 たちの笑顔がこれからもずっと続くために、私たちは 身近なところから行動することが求められているので はないだろうか。

ツアーに参加して 飯出 佐恵

この旅に参加させて頂きお世話になりました皆様に 感謝いたします。数年前に「森を守る会」で清水様の撮 影されたスライドを見せて頂いてから、"行ってみた い憧れの地"でした。

バナナの生える島が大好きな私は、まっさらな気持 ちで旅立ちました。ワイルドでハードなワクワクする 旅でした。椰子の木が茂る絵のような村の景観にウッ トリし、優しい人々に感謝する日々でした。電気が無 くても暗がりでも見える目が有り、心地よい風が吹い ていました。水道が無くても蛍が乱舞する豊かな川の 流れが有り、ガスが無くても枯れ木やココナツの殻が 有りました。貨幣が無くても収穫物を交換し、ココナ ツはいつでも喉を潤してくれます。自給自足の生活は 人が神様からもらった楽園のようでした。

森の中も又然りで、蝶が何処からかヒラヒラと舞い 出で、鳥の鳴き声で満ち溢れています。森がどれだけ 大切なのかを森の中を歩きながら、野営をしながら教 えてくださいました。あちこちに聳え立つ大木は生活 必需品に加工されますが、大木を斧で切り倒す労作を "チェーンソーがないからねー。"を何度も強調しな がら話してくれました。 我々の歓迎の為に、野豚除けの柵作りや開墾作業がス トップしているとのお話、ましてや森での1泊では焚 き火の周りで野営をし、鍋持参で調理をしてくださっ たのですから、ご迷惑をお掛けし歓待して頂きました ことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

野豚を生け捕る罠は弦を利用した簡単な物でした が、槍を掲げ森に入る若者は勇壮な狩人です。私達の 歓迎にも前日に仕留めた野豚を振舞ってくださいまし た。

野豚は締まった味でさっぱりと美味しく、料理はト マトとココナツをふんだんに使い新鮮な野菜や魚を煮 たもので、2食しか摂らず、子供たちはお腹がすいた らココナツを飲んで果肉を食べているので皆健康その ものでした。

生け捕りにした動物を家畜やペットとして村で放し 飼いにしています。

野豚は早朝床下でブフィーブフィーと鳴き、幼女に 撫でられるとゴローンと寝てしまって巨体に似合わず とても可愛いいもので、瓜坊主が3匹生まれ駆け回っ ていました。

最大の人気者はクスクスで、いつもは樹上で寝てい ますが、地上に下ろされると俊敏に走り出し、人間の 赤ん坊がそれを追っかけて這っていく姿は何とも微笑 ましいものでした。

彼らの五感はとても研ぎ澄まされていて、一緒にい るだけでかなりリフレッシュされたように感じると共 に、生きる喜びを分けて頂いたような新鮮な感動を覚 えました。

これからも社会的な問題はいろいろと起こるでしょうが、微力ながらも " 森を守る村人達 " にエールを送り続けられますように願っております。どうも有り難うございました。



ツアーに参加して 飯出 朋子

今回の旅に参加したきっかけは会員である母の誘い であった。私はパプアニューギニアのこと、伐採のこ となんてあまり知らず、行く?と聞かれたとき、正直 とまどった。しかし、清水さんの本を読んだり、今回 は電気もガスも水道もない原始的な生活をしている 人々に会えると聞き、こんな機会逃したらもうないか もしれないと、気持ちはすぐに固まった。

1週間の旅行のうち、ウイアク村に滞在したのは4 日間だけだったけど、本当に感動でいっぱいの旅で あった。

まず感動したのは人々の素朴さとあたたかさであ る。ウイアク村の人々は私たちをとてもあたたかく迎 え入れ、ホームステイ先の人々はもちろん、村中の 人々が子どもも大人も始終優しく気遣ってくれ、本当 によくしてくれた。

印象的だったのは子どもも大人もみんな目がきらき らしていて、すごくいい顔をしていたこと。日本にこ んなきらきらした目を持っている人は果たしてどれく らいいるのだろう。ウイアクで生活を共にしていくに つれ、その理由がわかってきた。

まず、時間の流れが日本と全く違うのだ。朝、日が 昇るとともに起きて、掃除、洗濯、食事、畑仕事、タ パ作り、日が暮れたら夕食、団欒、そして9時くらい には就寝という生活。特に時間を決めているわけでも なく、それらはとてもゆっくり、じっくりと行われて いる。こどもは両親を手伝い、近所の人々、村のみん なが助け合って生きている。



飯出佐恵さんの描くウイアク村(上)・トゥフィ(下)





食事も、自分たちで野菜を作り、漁や狩りをして、 必要なかだけ取って潤理して食べる。家も温具もほと などす自然素材、人の手で作られたものを使ってい る。 そこには人の知恵が溢れ、人間の本來の生活があっ た。きっと遠く遠く賃む日本人もみんなこういう生活 ちっと遠く遠く覚む日本人もみんなこういう生活 た。きっと遠く遠く覚む日本人もみんなこういう生活 た。さっと遠く遠く覚む日本人もみんなこういう生活 た。さっと遠く遠く覚む日本人もみんなこういう生活 た。さっと遠く遠く覚む日本人もみんなこういう生活 た。さっと遠く這く見つ日本人もみんなこういう生活 た。さっと遠く這く見つ日本人もみんなこういうた言 定とない生活。そこにはストレスといった言葉はな なく私たちにはない豊かざがあった。 豊かさの基準、価値燃は人それぞれだけど、お生や 物がいっぱいあることが買かではないと私は思う。ウ イアクの人々はそんな自然自足の生活に誇りを持ち。 ながなくなったらそのような生活が出来なくなること なかっている。 おかなくたちそのような生活が出来なくなるとこ ないこたらでかしたらたガーデン(畑)と森 なかっている。 第つ目に連れて行ってもちったガーデン(畑)と森 そこから少い離れて、一人たたずんでいる。あの子、 違かにおなないたらそのような生活が出来なくなるとこ ないっている。 3 日目に連れて行ってもちったガーデン(畑)と森 なかっている。彼々な種類の木々や鳥、尾 山がるなが溢れていて、豊かな水を生み出 いるので、生活で生ずる汚れもずくに自然に遣ってい いるので、生活で生ずる汚れもすくに自然に遣ってい いた。 がななったきのからか生活に試みたせたそして いるので、生活で生ずる汚れもすくに自然に這ってい れて、たたまれた、何かを際にしかり近く、そ の日は暮れた。 2 に見動がたといたいるほうケージ いるがないたられた何かな感にしっかい意味 かていた。 かた気づくないたのかを酸にしかり加いで、 それらの彼まがここにも久んだらい・?ということが 気になった。 一応、旅の前もマイ薯を持ったり、環境負荷の少な いうなられた何かを酸にしかり別れて、 それらの彼らたいたらい?ということが 気になった。 一応、旅の前もてすぎをたける、しか たいた。 本をすり続けていれば彼らの生活は守られる。しか たいたいろかを見かたしい。 なたち日本人は常に環境し気荷をちたるこ それらがしいた。 なたちれた。何かを酸にしたり違いた。 なたなた、何かを酸にしかり加いて、 それな何、急なれた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なれた、何かを酸にしかり別れて、 それな近れた、何かを酸にしたり別れて、 それな何、急なれた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なれた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なれた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なれた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なれた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なた、何かを酸にしかり別れて、 それな行、急なれた「かを酸にしかり別れて、 それな何、急なれた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なれた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なた、何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なた、何かを取じたい。 のが意かれた。 むたちにならなれた。何かを酸にしかり別れて、 それな何、急なた、何かを酸にしかりれて、 ないたちない、顔かを酸にしかりれて、 なたずがかなられた。 むたちない、 なたずむた、自かを見つている。 なたちか、これたで見かるたい。 なんなられた。何かを思いかかた。 なんない、 なんたすむ、 なんたすむ、 なんたすむ、 なんたすむ、 なんたすむ、 なんたすむ、 たっから、彼らたたい、こかがをたい。 たすむ こ たっから、彼らたたてい。 たっかりた。 たっかりた。 たっかりた。 たったする。 たったする。 たっかりた。 たっからい、 たっがた。 たんたする。 たったする。 たっかりた。 たっかりた。 たったいた。 たっからい。 たっかりた。 たっていない。 たっかりた。 たっからい。 たっから、 たっいたった。 たっかたた。 たっかた。 たっていなうた。 たっかた。 たっかうた。 たっていた。 たっからい。 たったする。 たっいた。 たいたっかた。 たっからから、 たったからい。 たっかたま。 たったかする。 たったからから。 たったからか。 たったまからい。		
 る。 そこには人の知恵が溢れ、人間の本来の生活があっ た。きっと違く違く首の日本人もみんなこういう生活がっ たってにたのだろう。お金がなくても豊富な食べ物。 周園をしげる心地よい家があり、時間に追われきる こともない生活。そこにはストレスといった言葉はな く、私たちにはない智かではないと私は思う。ウ イアクの人々はそんな台島回との生活に割で見るたた、 意かきの基準、値値感は人それぞれたけど、お金や かメラを手にした僕を取覚くように、砂の上に戯れる小さな子 がたった。 きかっけよくなくなること を知ってはる。とが豊かではないと私は思う。ウ イアクの人々はそんな台島回との生活に割で見るたとなく、声をかけようともしない, なったらそのような生活が出来なくなること を知いる方をしてきちったガーデン(畑)と素 3日目に連れて行ってもちったガーデン(畑)と素 ながに高くたいぞれたびと、きなや ないさん、そののたいる、酸の子、 まがいる森はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出 していた。 ウイアクク人々は自然の中に溶け込んで生活をして いろのた、生活で生ぎる方れもすぐに自然に思っていし、 がのなみも調整し、人間が生態系の一部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部にいる野ブタ等動 かりをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 かりをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 かりたま活をすいる。 まとは教しい。 家で可り続けていればならの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気条、 不知意した。 それを超れたい。何かを聞いてかる。 ポなです。 不同さてもちんたちをついうき症なす。 そったと思いながちも、日本でこういう生活をす ことは数いい 森を守り続けていればならの生活は守られる。しか いうのたこた。 予切を見て着をたち・・? ということせま こたいるただりと思いながらた。日本でこういう生活をす ふたち日本人は常に環境に負荷をちえながらとま ていをしなんだら・・? ということ こたが、もったもしなんだら・・? ということは てきたるたんに見かたう。 不相差し使き気詰めている。 てからりのようにかようを考にしたのためを思いいか。 てもたるたんでしなった。 おったいをしたりを見なからした。 こた、 わったまになんたき	必要な分だけ取って調理して食べる。家も道具もほと	あの子は今日も 米森 文嗣
た。きっと這く這く書の日本、もみんなこういう生活 をしていたのだろう。お金がなくても豊富な食(秋)、 雨夏をしの行る心地よい家があり、時間に迫われ(あ こともない生活。そこにはストレスといった言葉はな く、私たちにはない豊かざがあった。 豊かさの基準、価値感は人それぞれだけど、お全や 物がいっぱいあることが豊かではないと私は思う。ウ イアクの人々はそんな自動自足の生活に皆りを持ち、 がなくなったらそのような生活が出来なくなること を知っている。 3日目に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 がしていわろうともせず、言葉を発することもなく、静かに眺 めている。 3日目に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 は本当に素晴らしかった。様々な種類の木々や鳥、民 いいる森はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出 していた。 ウイアクク人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生する汚れもすぐに自然に違ってい 、劣りをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して く、分りをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して い。 うな子がためいならも、日本でこういう生活をす ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気気、 それた気はればになられた「にはらばられな」の多を開けてみる。 パイブルらしい。 彼は何も言わず、それを指差し僕を見詰めている。 徴は何も言わず、それを描差し僕を見詰めている。 徴は何も言わず、それを描差し僕を見詰めている。 徴は何も言わず、それを描差し僕を見詰めている。 健心の時が流れた。 ろった方が、もっとちっと責任をもってできることは いちのたこにも及んだら…?ということが ないるのだ。 一応、旅の前もてイ箸を持ったり、環境負荷の少な いちのよたりと思うた。そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくそうから、たっぱし環境自何の少な いちのよたりと環境やエコなことには敏感なっも していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 見れる子状達。にしンズを向けなが、彼を手招いた。 こちらにあうた。 かけ、うたて本に最分にたちる。、分かの上に したい意でにしたまのたちできることは ていきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい 、 様は何も言わず、それを描述し僕を取替くように、砂の上に していきたいと思った。 そのういうですることは、この素晴らしい体 いちのようにがうき本にした僕を取替くように、砂の上に したすにも分ん、もの、たてから、たっぴいと見なって くたが、もっとちっと責づたり、玉参さい 、 切しの時が流れた。 子のらのようによううを手にした僕を取替くように、砂の上に したいでものした。 母ロの少方、 いちのようにかがうを手にした僕を取替くように、砂の上に したいできるっため、自分の目 、こているこうが、なっとれたみはもちろん、かせいた。 そいなことに気づくことができたのなた。自分の目 いたがでする、ため、こかの上の、気でのするい。 なしていたりかった。こそであり、天然	ర .	
をしていたのだろう。お金がなくても豊富な食べ物、 両温をしのげる心地よい家があり、時間に迫われ係る こともないほえ、そこにはストレスといった言葉はな うかたちにはない豊かさがあった。 豊かさの基準、価値感は人それぞれだけど、お金や ががいっぱいあることが豊かではないと私は思う。 クアクカ人々はそんな自給自足の生活に誇りを持ち、 素がなくなったらそのような生活が出来なくなること を知っている。 3 日目に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 は本当に素晴らしかった。様々な種類の大々や鳥、長 虫がいる森はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出 していた。 うイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして、 いるの方を見ることもなく、声をかけようともしない、 彼の様子や視線が気になりながら、伺となく近寄りがたく、そ の日は暮れた。 していた。 うイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして、 いるのな、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違っていい く、狩りをすることとで経惑の上部にいあ男ブク等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。ので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違っていた。 ふと気づくと、いつの間にか、彼が僕の横に座っている。 古どた布にくまれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかし抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば一くまれた、何かを開にしっかいして、 それば何、ときれた、何かを開にしっかり抱いに、 がど気づくたのようた、 物なたちに、それては、異常気気、 などれてい、たったを見かの自い、彼なられている。 など目のク方、 いつちんだしまった。 からのが、一、一、広で前しなでも、彼を見おのている。 などれたでした気がた、この村を去ら などしたいと思った。 そのうたいと思った。 そいた見っている」とががきたからた、自分の目 なばならない。 なをもなとに気づくことががきたかのた。自分の目 でちたいた、見分の日、したまっている」、 などういた。 など見つかなら、とかえたてできる、自分の目 なられたいと思った。 なたれて、気かたずい過ごた、この村を去ら ないなられた。この村を去らすった。 なんたりを知たりたり、玉がさ そいたがこのなら、たこの村を去ら、自分の目 でちたいた。目分の目 でちたいた。自分の目 でちたいた。自分の目 でちたいたいた。こかすたいた。この村をまら なんちょうれた。 なを見ないにしたってたるか、かから、彼を手招いた。 なを手招いた。 なをすれては、たっの社をもてい、 なたら、ことができたのた。自分の目 でちたいた。こかたた。こかから、彼を手招いた。 なたい。 なたらってくれたみはもた。こから、こかた。 たちていたいたいた。こか。 たちていた。こかた。 なたら、こかがた。た。 たちていた。 なたら、こかがたら、た。 たちていたいた。 たちていた。 なたら、こかった。 たちていた。こから、 たちていたいた。 たちていた。 なたら、こかがた。 たちていた。 なたら、こかがた。 たちていた。 なたら、 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていたいた。 たちていた。 たちていたいた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 なたら、 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 なたら、 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。 たちていた。		
雨風をしのげる心地よい家があり、時間に追われ無る こともない生活。そこにはストレスといった言葉はな く、私たちにはない豊かざがあった。 豊かさの基準、価値感は入それぞれだけど、お金や 物がいっぱいあることが豊かではないと私は思う。ウ イアクの人々ばそんなは自己の生活に誇りを持ち、 森ななくなったらそのような生活が出来なくなること を知っている。 3日目に遭れて行ってもちったガーデン(畑)と森 ながいる森はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出 していた。 ウイアクカ人々は自然の中に漬け込んで生活をして、 いるので、生活で生ぎる形もすぐに自然に浸ってい 、方がりをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して、 いる。で、生活で生が高れすぐに自然に浸ってい 、満立の力えっに健かいた、他の上に成れる小さな子 供道の離れ、一人たたずんでいる。あの子、 遊びに加わろうともせず、言葉を発することもなく、静かに眺 めていた。 マイアをの人々は自然の中に漬け込んで生活をして、 いるので、生活で生きふわたすでに自然に浸ってい 、読む方でもたったりまたまです。 、花気づくと、いつの間にか、彼が僕の横に座っている。 古びた布にくるまれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、と得ねた、そのかと加い、彼が僕の横に座っている。 古びた布にくるまれた、何かを開にしっかり抱いて、 それば何、と得ねた、包かを開していかり抱いて、 それば何、と得ねた、包かを開していかり抱いて、 それば何、と得ねた、包かを開していかり抱いて、 それば何、と得ねた、回称にしかり抱いて、 それば何、と得ねた、そのかのとしいかり抱いて、 それば何、と得ねた、このが感にしっかり抱いて、 それば何、と得ねた、回称にこかり見い。 など可能と知らがたる、日本でこういう生活をする、 こちのた。 一次、旅の前もマイ等を持ったり、環境負荷の少な なったいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体、 製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつち りたったが、もっともっと責任をもってできることは、この素晴らしい体、 なんなことに気づくことができたのも、自分の目 なんなことに気づくことができたのも、自分の目 なんなことに気づくことができたのか、自分の目 なんたどとなっている。彼ら手招いた、この村を去ら ればならない、 果ったそれた何はながら、彼を手招いた。こかやま気 いうのよことの重要性も再認識できた。 旅に訪ってくれた母はもちろん、部位話をしてくれ、 旅に訪ってくれた母はもちろん、部位話をしてくれ、 ただっていた。これのなこそであり、気のち でもったい、このかす。彼を手招いた。 こちらに歩きかいては、違っているような、 ならずれたみは、たからこそであり、ころが なくたちっく、ころいうまでは、この素晴らしい体、 なんことに気づくことができたのも、自分の目 なんことに気づくことができたのも、自分の目 なんたちさく、自分の目 なんことに気づくことができたのも、自分の目 なんことに気づくことができたのも、自分の目 なんことに気づくことができたのも、自分の目 なんことに気づくことができたのも、自分の目 なんことに気づくことができたのも、自分の目 なんことに気づくことができたのも、自分の目 なんことに気づくことができたのう、自分の目 なんこというころ。 なんことに気づくこというたか。、自分の目 なんでいる。 なんことに気づくこといたらこそであり、気のに、 なんでしたらこそでに感したいた。 なんでにためもれたいたうこそこか。 なんでにたっていたちら、 なんこというころでにため、自分の目 なんことからこくに気がら、彼を手招いた。 ならったいたまうた。 たちってれた母はもちろん、おいたちてく なんたいたちっ、 なんてにたがまうたいたから、 なんたいたらこそでものも、自分の目 なんていたったったり、 なんたら、こといたら、 なんたいたらことてため、 たちっていたから、 なんこといたら、 なんでに感したいらこそであい、 たちっていためしたからこそでであい、 たちっていたいたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なるたから、 たちっていたいたから、 なんていたかったいたから、 なんことから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんていたから、 なんたから、 な		
こともない生活。そこにはストレスといった言葉はな く、私たちにはない豊かさがあった。 豊かさの基準、価価値には入それぞれたけど、お金や ががいっぱいあることが豊かてはないと私は思う。ウ イアクの人々はそれな自給自足の生活に誇りを持ち、 森がなくなったらなのような生活が出来なくなること を知っている。 3 日目に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 く、海的をす高しかった。様々な種類の大々や鳥、配 したいた。 ウイアクの人々は自然の中に漬け込んで生活をして、 いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違ってい いうのアクの人々は自然の中に漬け込んで生活をして、 いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違ってい いうのアクの人々は自然の中に漬け込んで生活をして、 いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違ってい いるので、生活で生態系の上部にいる野グ等勤 物敵の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いた。 うくアクの人々は自然の中に漬け込んで生活をすることは していた。 うく方かの人々は自然の中に漬け込んで生活をして、 、がと気づくと、いつの間にか、彼が僕の横に座っている。 古びた布にくまれた、何かを胸にしっかり抱いて、 それば何、と尋ねた。 そったばないたしまた。これは彼らの生活は守られる。しか いく羽廷地球規模で進んでいる温暖化、異常気気、 それらの波雷がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短端するために早にも美ってくど、 気いのあだ。 一応、筋の前もマイ薯を持ったり、環境負荷の少な いのもなこれと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことでであ ことは軟酸なっち、自分の目 く、そりのうと環境やエコなことには軟酸なっち いうものようにカメラを手にした僕を取巻くように、砂の上に 朝知ん子供達、そいうようだ。 そこから少し離れ、一人たたずむ彼、 明朝、人々の温かい愛情に包まれて過ごした、この村を去ち いうちのが、 ーして他を自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ ここちらに歩きかけては、迷っているようだ。 そこから少し離れ、一人たたずむ彼、 明朝、人々の温かい愛情に包まれて過ごした、この村を去ち いうちのように大手供達しというさが、彼を手招いた。 こちらに歩きかけては、迷っているようだ。 そのうち、子供達のこくため、自分の日 できていう、のがまてにした全ての人、旅行 でうてた。 、彼古子供達も、一緒に写真に納まった。		
 く、私たちにはない豊かさがあった。 豊かさの基準、価値感は人それぞれだけど、お金や がいっぱいあることが豊かではないと私は思う。ウ イアクの人々はそんな自給自足の生活に待りを持ち、 森がなくなったちちのような生活が出来なくなること を知っている。 3日目に連れて行ってもらったガーデン(加)と森 オビニ素晴らしかった。様々な種類のネ々や鳥、胃 豊かいる激はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出 していた。 ウイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生する汚れもすぐに自然に遇ってい 、溶りをすることで生態系の上部にいる野ブダ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。 マリロ朝に、心地はい風にタバコを集らせ、海を 勝めていた。 空田の朝。 浜辺の力ヌーに腰かけ、心地はい風にタバコを集らせ、海を 勝かていた。 ウイアク病人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生する汚れもすぐに自然に遇ってい 、溶りすすることで生態系の上部にいる野ブダ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。 マリの前にないたち、日本でこういう生活をする。 ことは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常緊急、 それた何、と尋ねた。 マ目の朝に、はちばらになっている。 ゴびた布にくるまれた、何かを胸にしっかり抱いて、 それな何、と尋ねた。 マ目の朝に、はちばらになっている。 (ないたの、 うた気づくといつの間にか、彼が僕の横に座っている。 古びた布にくるまれた、何かを胸にしっかり抱いて、 それな何、と思うなかこでい。 (ないたて、も本を開けてみる。 ポンたちのよんだら・・・?ということが 気になった。 「パイブルらい」」 環想のたちのですった。、それを精道と(愛を見詰めている。 (なは声に出し、それを読み始めた、 彼は時できるごかのように、黙って、それを聞いている。 モいちゆいと聞ったいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 い気にならない。 敏と大なに気が、そういうくことができたのも、自分の日 、たちら少し離れ。一人たたずむ彼、 明朗、人々の温かい愛情に包まれて過ごした、この村を去ら したいなころにから、彼を手招いた。 こちらた歩きかけては、迷っているようだ。 そのうち、子供達の中の女の子と男の子が、彼に走り寄って 行った。 (彼子供達も、一緒に写真に納まった、 れんでいるころでの歌しんい。 マロマがなない、このたるであり、気感で マもてに感謝したい、 本当にありがとうございました。 		
 豊かさの基準、価値感は人それぞれだけど、お金や 物がいっぱいあることが豊かではないと私は思う。つ イアクの人々はそんな自給自定の生活に誇りを持ち、 気がなくなったらそのような生活が出来なくなること 第日目に連れて行ってもらったガーデン(加)と森 第3日目に連れて行ってもらったガーデン(加)と森 は本当に素晴らしかった。様々な種類の木々や鳥、毘 虫がいる森はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出 していた。 ウイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違ってい 、、約りをすることで生態系の上部にいる野ブク等加 物の数も調整し、人間が生態系の上部にいる野ブク等加 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。 第日の朝、 いるの支えと生態系の上部にいる野ブク等加 いん、切方することで生態系の上部にいる野ブク等加 いん、約することで生態系の上部にいる野ブク等加 いたれた。 第日の朝、 、シスワイと、いつの間にか、彼が僕の横に座っている。 古びた布にくるまれた、何かを胸にしっかり抱いて。 それば何、を得ねた。 それをと期にながらも、日本でこういう生活をする。 なと気づくと、いつの間にか、彼が僕の横に座っている。 古びた布にくるまれた、何かを胸にしっかり抱いて。 それば何、を得ねた。 それを超しい。 森を守り焼けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球損視で進んでいる温暖化、異常気袋、 なたちロ本人は常に環境に負荷を与えながら生き であった。 泉できてから、やっぱり夜になったら電気はつけ、 振っなうてきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま う、私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き でもるのた。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な いちもととしき食性をもってできることは していきたいと思った。 マとロで自分にできることは、この素晴らしい体 軟も人々に伝え、そういう人を増やしていくことでき ことは 酸れる子供達。 そいちの少し離れ、一人たたずむ彼、 明朝、人々の温かい愛情に包まれて過こした、この村を去ら ればならない, 第5に話ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ たべ本と体的したからこそであり、玉畑、 本と子供達をい一緒に見まれて過こた、彼の手招いた。 ならたろに気づくことができたのも、自分の目 てしていたのがをまたしたくての人、旅先 てもち、子供達の中の女の子と男の子が、彼に走り寄って 行った。 (パブクアニュギニアでの沢山の写真の中で、彼の写真は、こ れー枚きりてある. 		・ ウイアク村ガンジーガの昼下がり。
 物がいっぱいあることが豊かではないと私は思う。ウ イアクの人々はそんな自給自足の生活に誇りを持ち、 森がなくなったらそのような生活が出来なくなること 3日目に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 3日目に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 3日目に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 マ件連も、彼の方を見ることもなく、声をかけようともしない、 彼の様子や視線が気になりながら、何となく近寄りがたく、そ のけいる条はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出 いていた。 ウイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして 30ので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に遭ってい く、狩りをすることで生態系の上部にいる野ブラ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に遭ってい る。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす マをすり続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 名たらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 彼し時も古が、それを指力し、しかり随い、彼が僕の横に座っている。 古びた布にくるまれた、何かを胸にしっかり抱いて、 それは何と尋ねた。 そことは難しい。 第2回の朝, 浜辺のカスーに腰かけ、心地よい風にタバコを煙らせ、海を 明めたと思いながらも、日本でこういう生活をす マさないら、やっぱり夜になったら電気はつけ し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それちら被害がここにも及んだら・・・?ということどが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するためのに車にも乗ってしまう。 ふたち日本人は常に環境に負荷を与えながら生さて さいるのだ。 一広、旅の前もマイ箸を持ったり、漫境負荷の少な いうもんだした見気がたことなしたいき点ないと思った。 翌2日の夕方、 いうたんだりと環境やエコなことには敏感なつち 切らいたいと思った。 そしたしと言ったしたのできることとは、この素晴らしい体 ねくなうたから少し離れ、一人たたずむ彼、 マのちが流れた。 マとには敏感なつち 切らのようにかたうを手にした僕を取答くように、砂ムにしている。 ならちいと思った。 それなことに気づくことができたのも、自分の目 こちらに歩きかけては、迷っているようだ. そのうたくれた母はもちろん、赤世話をしてくれ、 校本さんた約め、この旅を共にした全ての、応先 ボに誘ってくれた母はもちろん、赤世話をしてくれ、 ならに塗って、 たが本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 パイに登録したらい。 ないためてため、 ためになって、 たがったしたっての人、旅先 ボに添ってくれた母はもちろん、赤世話をしてくれ、 ないためて、 ないに参いってたったい ないちえての気、 ないちょくれつようた。 ないちょくれつようた。 ないちょくれつようた。 ないちょくついうた。 ないちょくれつようた。 ないちょくれつようた。 ないちょくれつようた。 ないちょくっかったい ないちょくっかったく ないちょくれつようた。 ないち		
イアクの人々はそんな自給自足の生活に誇りを持ち、 森がなくなったらそのような生活が出来なくなること な知っている。 3日目に運れて行ってもらったガーデン(畑)と森 は本当に素晴らしかった。様々な種類の木々や鳥、毘 虫がいる森はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出 していた。 ウイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違ってい いるので、生活で生する汚れもすぐに自然に違ってい いるので、生活で生する汚れもすぐに自然に違ってい いるので、生活で生する汚れもすぐに自然に違ってい いるので、生活で生きる方れもすぐに自然に違ってい いる。 売と気でと聴怒の上部にいる野ブ今等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して い。 電想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす ことは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気氣、 それよ何、と尋ねた。 そっと差し出された、包みを開けてみる。 パイブルらしい、 撮びがはくれ、ばちばらになっている。 でれよ何にと尋れた、何かを開してみる。 パイブルらしい、 優々市地球規模で進んでいる温暖化、異常気氣、 それよらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 一応、旅の前もマギ畜を持ったり、環境負荷の少な いうもんだりと環境やエコなことには観感なつち りだったが、もっともっと責任をもってできることは していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 数私なちになえ、そういう人を増やしていくことであ むくた気、そういう人を増やしていくことであ な、た話うってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ、 旅に誘ってくれた母はちちろん、あ世話をしてくれ、 た松本さんを始め、この旅を共にしたそでの人、旅先 て出会うにざいまのだ。 本当にありがとうございました。 たいろのがを大口になっていねい。 なたまうから、そうこざいました。 たいろのがたいた。 なは持くうなずくかのように思想ってもた。 なないるこたがら、彼な手招いた。この村を去ら たいろのがないた。彼を手招いた。 たいろってれた母はもちろん、お世話をしてくれ、 なんち子供達しいの写真の中で、彼の写真は、こ れー枚きりである。		
 森がなくなったらそのような生活が出来なくなること 差切に加わろうともせず、言葉を発することもなく、静かに眺めている。 3日目に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 子供達も、彼の方を見ることもなく、声をかけようともしない、 ウイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違ってい く。狩りをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いるので、生活でとするの上部にいる野ブタ等動 がの数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いるので、生活でとするの上部にいる野ブタ等動 かの数も調整し、人間が生態系の一部として機能して ことは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しかし、 今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それる何となんだら・・・?ということが 細胞 たちれた、包みを開けてみる。 パイブルらしい。 線したきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしてめたいと思った。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少ない 製品を塗みだりと環境やエコなことには敏感なつち りたったが、もっともっと責任をもってできることは していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験もんなに伝え、そういう人を増やしていくことであ みたなとたり気づくことができたのも、自分の目 マ見て聞いて、体で体験したからこそでものり、五端 で見て聞いて、体で体験したからこそでのり、五端 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ、た松本さんを始め、この旅を具にした全ての人、流先 で出会ったく、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 		
を知っている。 3 日日に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 がいる森はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出 していた。 ウイアクの人々は自然の中に潜け込んで生活をして いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違ってい く。狩りをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか 、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それば何、と暑ねた。 そことは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか 、のく気づくと、いつの間にか、彼が僕の横に座っている。 古びた布にくるまれた、何かを胸にしっかり抱いて。 それば何、と暑ねた。 そっと差し出された、何かを胸にしっかり抱いて。 それば何、と暑れた。 そっと見いながらも、日本でこういう生活をす ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか 、の、の前能でく自然に環境に負うため。しか い、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ でしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 った、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な いつもな方にカメラを手にした僕を取巻くように、砂の上に 成れる子供達。 なしていたにと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 脳、人々の温かい愛情に包まれて過ごした、この村を去ら ないることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、あ世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を其にしたくての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。		
3 日目に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 3 日目に連れて行ってもらったガーデン(畑)と森 は本当に素晴らしかった。様々な種類の木々や鳥、昆 カゲリアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に這ってい いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に這ってい いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に這ってい いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に這ってい 酸の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 茶たらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 鳴ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な い製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつも リだったが、もっともっと責任をもってできることは、この素晴らしい体 製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつち していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 酸を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、玉感で 応じ誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にしたそての人、旅先 水に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にしたそこの人、旅先 オーズアーの沢山の写真の中で、彼の写真は、こ れー枚きりである。		
は本当に素晴らしかった。様々な種類の木々や鳥、昆 虫がいる森はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出 していた。 ウイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に還ってい く。狩りをすることで生態系の上部にいる野ブダ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それもの被害がここにも及んだら・・・・?ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしよ う.私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な い数量を選んだりと環境やエコなことには敏感なつち りだったが、もっともっと責任をもってできることは、 していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ、 た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 など気であた。 本当にありがとうこざいました。	_	
 虫がいる森はいのちが溢れていて、豊かな水を生み出していた。 ウイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に還っていく、許りをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能している。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をすることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しかしく、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それは何、と尋ねた。 そっと差し出された、目みを開けてみる。 たるたにくるまれた、何かを胸にしっかり抱いて。 それは何、と尋ねた。 そっと差し出された、目みを開けてみる。 パイブルらいり、 (彼は時できわる。しかし、 (彼は時できたいるたら電気はつけてしまうた。 市に出しておきたいを読みたらを電気はつけてしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしまう。 私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生きているのだ。 ロに動でたっと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことである。 そんなことに気づくことができたのも、自分の目 取るたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことである。 そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ、たべ本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 パブアニュギニアでの沢山の写真の中で、彼の写真は、これ一枚きりである。 		
していた。 ウイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違ってい く、狩りをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それたの被害がここにも及んだら・・・ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ひだったが、もっともっと責任をもってできることは りだったが、もっともっと責任をもってできことはは敏感なつも していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 酸な人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ たびたがに誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 とのもながのように、まっているようだ。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 なんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で妹娘したからこそであり、五感で がに誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 パブアニュギニアでの沢山の写真の中で、彼の写真は、こ れー枚きりである。		
ウイアクの人々は自然の中に溶け込んで生活をして いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に違ってい く。狩りをすることで生態系の上部にいる野ブタ等す 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な いりだったが、もっともっと責任をもってできることは していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ、ため ていろった人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。		95
いるので、生活で生ずる汚れもすぐに自然に還ってい く、狩りをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 そっと差し出された、包みを開けてみる。 パイブルらしい。 後し何も言わず、それを指差し僕を見詰めている。 僕は声に出し、それを読み始めた。 でしていた。 市びたちれく気づく、いつの間にか、彼が僕の横に座っている。 さびた布にくるまれた、何かを胸にしっかり抱いて、 それは何、と尋ねた。 そっと差し出された、包みを開けてみる。 パイブルらしい。 後し何も言わず、それを指差し僕を見詰めている。 僕は声に出し、それを読み始めた。 彼は時々うなずくかのように、黙って、それを聞いている。 暫しの時が流れた。 翌々日の夕方、 いつちのが忘れく、ちっとちっと間できたることは、この素晴らしい体 数を入々に伝え、そういう人を増やしていくことであ していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ なんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で なんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で た話。ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ たな本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 パブアニュギニアでの沢山の写真の中で、彼の写真は、こ れー枚きりである。		* 翌日の朝。
く。狩りをすることで生態系の上部にいる野ブタ等動 物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して いる。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な い料園を選んだりと環境やエコなことには敏感なつも い気になった、そうともっと責任をもってできることは、 していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重性も再認識できた。 本当にありがとうございました。		↓ 浜辺のカヌーに腰かけ、心地よい風にタバコを燻らせ、海を
いる。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか い、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 そっと差し出された、包みを開けてみる。 パイブルらしい。 い、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 彼は何も言わず、それを指差し僕を見詰めている。 僕は声に出し、それを指差し僕を見詰めている。 僕は声に出し、それを詰み始めた。 彼は時々うなずくかのように、黙って、それを聞いている。 僕は声に出し、それを詰み始めた。 彼は時々うなずくかのように、黙って、それを聞いている。 響しの時が流れた。 シー応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な い割最を選んだりと環境やエコなことには敏感なつも していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅た で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。		眺めていた。
いる。 理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす ることは難い。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか 人の現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま、 う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な い割器を選んだりと環境やエコなことには敏感なつも していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 ため、	物の数も調整し、人間が生態系の一部として機能して	。ふと気づくと、いつの間にか、彼が僕の横に座っている。
ることは難しい。 森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な い製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつも りだったが、もっともっと責任をもってできることは、 していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 底に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 そっと差し出された、包みを開けてみる。 パイブルらしい。 綴じがほくれ、ばらばらになっている。 彼は何をうすずくかのように、黙って、それを聞いている。 智しの時が流れた。 翌々日の夕方。 いつものようにカメラを手にした僕を取巻くように、砂の上に 戯れる子供達。 そこから少し離れ、一人たたずむ彼、 明朝、人々の温かい愛情に包まれて過ごした、この村を去ら ねばならない。 集まった子供達にレンズを向けながら、彼を手招いた。 こちらに歩きかけては、迷っているようだ。 そのうち、子供達をいか女の子と男の子が、彼に走り寄って パブアニュギニアでの沢山の写真の中で、彼の写真は、こ れー枚きりである。		↓ 古びた布にくるまれた、何かを胸にしっかり抱いて。
森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な い製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつも りだったが、もっともっと責任をもってできることは、 していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。	理想的だと思いながらも、日本でこういう生活をす	* それは何、と尋ねた。
し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、 それらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な りだったが、もっともっと責任をもってできることは していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。	ることは難しい。	🌔 そっと差し出された、包みを開けてみる。
それらの被害がここにも及んだら・・・?ということが 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な い製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつも りだったが、もっともっと責任をもってできることは、 していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。	森を守り続けていれば彼らの生活は守られる。しか	・ バイブルらしい。
 気になった。 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしまう。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な い製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつも りだったが、もっともっと責任をもってできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 僕は声に出し、それを読み始めた。 彼は時々うなずくかのように、黙って、それを聞いている。 暫しの時が流れた。 翌々日の夕方。 いつものようにカメラを手にした僕を取巻くように、砂の上に 戯れる子供達。 そこから少し離れ、一人たたずむ彼。 明朝、人々の温かい愛情に包まれて過ごした、この村を去ら ねばならない。 集まった子供達にレンズを向けながら、彼を手招いた。 こちらに歩きかけては、迷っているようだ。 そのうち、子供達の中の女の子と男の子が、彼に走り寄って 行った。 彼も子供達も、一緒に写真に納まった。 パブアニュギニアでの沢山の写真の中で、彼の写真は、こ れ一枚きりである。 	し、今現在地球規模で進んでいる温暖化、異常気象、	がほぐれ、ばらばらになっている。
 帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ 彼は時々うなずくかのように、黙って、それを聞いている。 暫しの時が流れた。 翌々日の夕方。 いつものようにカメラを手にした僕を取巻くように、砂の上に 戯れる子供達。 そこから少し離れ、一人たたずむ彼。 いつものようにカメラを手にした僕を取巻くように、砂の上に 戯れる子供達。 そこから少し離れ、一人たたずむ彼。 明朝、人々の温かい愛情に包まれて過ごした、この村を去ら ねばならない。 柴まった子供達にレンズを向けながら、彼を手招いた。 こちらに歩きかけては、迷っているようだ。 そのうち、子供達の中の女の子と男の子が、彼に走り寄って 行った。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 	それらの被害がここにも及んだら・・・?ということが	🗼 彼は何も言わず、それを指差し僕を見詰めている。
 てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしまう。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生きているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少ない製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつもりだったが、もっともっと責任をもってできることは、していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことである。そんなことに気づくことができたのも、自分の目で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれた松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 	気になった。	僕は声に出し、それを読み始めた。
 う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生きているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少ない製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつもりだったが、もっともっと責任をもってできることは、この素晴らしい体験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことである。そんなことに気づくことができたのも、自分の目で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれた松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 	帰ってきてから、やっぱり夜になったら電気はつけ	🖡 彼は時々うなずくかのように、黙って、それを聞いている。
ているのだ。 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な い製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつも りだったが、もっともっと責任をもってできることは していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 ³ 翌々日の夕方。 いつものようにカメラを手にした僕を取巻くように、砂の上に 戯れる子供達。 そこから少し離れ、一人たたずむ彼。 明朝、人々の温かい愛情に包まれて過ごした、この村を去ら ねばならない。 集まった子供達にレンズを向けながら、彼を手招いた。 こちらに歩きかけては、迷っているようだ。 そのうち、子供達の中の女の子と男の子が、彼に走り寄って 行った。 がしまうた。 パプアニュギニアでの沢山の写真の中で、彼の写真は、こ れー枚きりである。	てしまうし、時間を短縮するために車にも乗ってしま	* 暫しの時が流れた。
 一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少ない製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつもりだったが、もっともっと責任をもってできることは、このすい型情に包まれて過ごした、この村を去らなしていきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことである。そんなことに気づくことができたのも、自分の目で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれたなななた、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 いつものようにカメラを手にした僕を取巻くように、砂の上に戯れる子供達。 いつものようにカメラを手にした僕を取巻くように、砂の上に戯れる子供達。 そこから少し離れ、一人たたずむ彼。 明朝、人々の温かい愛情に包まれて過ごした、この村を去らなばならない。 集まった子供達にレンズを向けながら、彼を手招いた。こちらに歩きかけては、迷っているようだ。 そのうち、子供達の中の女の子と男の子が、彼に走り寄って行った。 彼も子供達も、一緒に写真に納まった。 パブアニュギニアでの沢山の写真の中で、彼の写真は、これー枚きりである。 	う。私たち日本人は常に環境に負荷を与えながら生き	4
い製品を選んだりと環境やエコなことには敏感なつも りだったが、もっともっと責任をもってできることは していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。	ているのだ。	※ 翌々日の夕方。
りだったが、もっともっと責任をもってできることは、 していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。	一応、旅の前もマイ箸を持ったり、環境負荷の少な	👖 いつものようにカメラを手にした僕を取巻〈ように、砂の上に
していきたいと思った。 そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。		
そして他に自分にできることは、この素晴らしい体 験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。	りだったが、もっともっと責任をもってできることは	
験を人々に伝え、そういう人を増やしていくことであ る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。	_	
る。そんなことに気づくことができたのも、自分の目 で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。		
で見て聞いて、体で体験したからこそであり、五感で 感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。		
感じることの重要性も再認識できた。 旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。 イラった。 (行った。) (彼も子供達も、一緒に写真に納まった。 パプアニュギニアでの沢山の写真の中で、彼の写真は、こ れ一枚きりである。		
旅に誘ってくれた母はもちろん、お世話をしてくれ た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。		
た松本さんを始め、この旅を共にした全ての人、旅先 で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。		
で出会った人、もの、全てに感謝したい。 本当にありがとうございました。		。 彼も子供達も、一緒に写真に納まった。
本当にありがとうございました。		
	本当にありがとうございました。	れ一枚きりである。
		۲. ۲

2008年 ウイアク村へのエコツアーご案内

来年8月、マイシン語を話すウイアク村等へのエコツアーを開催する計画があります。今 回ツアーに参加した方々の感想にもあるとおり、原生林を守りつづける村での体験は貴重な ものとなるでしょうし、地域社会の発展を考える共同体のマイカッドにとっても大切な支援 となります。ツアーへのご参加をご希望なさる方は下記までご一報いただければ、ツアー参 加の手順や詳しい内容等をお知らせいたします。よろしくお願い申し上げます。 「森を守る会」事務局長 松本 浩一 png@ps.ksky.ne.jp 携帯090-2328-8518

